
IS インフィニット・ストラトス 4 凶

nattou

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

IS インフィニット・ストラトス 4 凶

【Nコード】

N3022S

【作者名】

nattou

【あらすじ】

このお話は、復讐のために生きる少年と熱いものが大好きな雪女の物語であり、5神のお話の外伝である。（5神と平行にして読むと面白いです）

第0話 少年（前書き）

まず、この作品はIS インフェニット・ストラトス 5神と平行
にして描かれる作品です。 まずこの作品を読む前に、 5神を見る
ことをお勧めします。

第0話 少年

この物語は、復讐のために生きる少年と少し変わった雪女の物語である。

「……ここにあるのかぁ？ 伝説の鎧つてのは
よぉ……」

「はい、間違いなくここにありません」

とても寒い山奥に二人の人影があった。一人は子供……というより、高校生ぐらいの背であった。もう一人はおじさんである。

「ちっ！ 寒いつたらありやしねえなあ」

「……そうです
ね」

ちなみに偉そうな態度をとっているのはおじさんではなく、高校生の方である。普通は立場が逆なのだが……。

「・・・案内ありがとなあ。もう用はねえ、消えろっ！」

えっ！？　ぐぎゃあああっ！」

「

なんとおじさんを高校生が
斬ったのだ。首を・・・そしてその首は森の奥に飛んでいった。

「・・・ホント、馬鹿だなあ！」

高校生は高笑い
をしていた。この少年にとっては、殺人は日常の中の一部なのだ。

「・・・さあてと、探すかあ」

し始めた。

少年は辺りを探

「ねえ」

「あん？ ナンダア？」

後ろから聞こえる声は、どうやら女の子のようだ。そして少年が振り返ると、一人の少女が立っていた。

「・・・あなたが、

鎧の契約者？」

契約者？ 少年は考えた。ここで嘘をつけば鎧の場所が分かるかもしれないからだ。目の前の・・・女は場所を知っているかもしれないからなあ、と。

「ああ、俺が

そうだあ」

言ったのが間違いだった・・・。言った直後に、抱きつかれたからだ。

「やったっ！ 彼氏ゲットですっ！」

「っ！？ 離せえ、デメエ！」

始まる・・・。

こうして、物語は

第0話 少年（後書き）

N「外伝書いてみたかったー^^ 見てくださりありがとうございます！」

第1話 ワルキューレ（前書き）

さあ、始めますよー ^^

第1話 ワルキューレ

ワルキューレというのを知っているだろうか？ 戦場において死を定め、勝敗を決する九人の女性達である。日本では、戦乙女・戦女神とも言われる。元々、戦争と死を司る主神・オーディーンの娘であつたのだが、今は姿を変えて世界各地に散らばっている・・・。

舞姫理奈。実は彼女もワルキューレの一人である。ワルキューレには一人一人に能力がある。理奈のISに変身する能力もこの一つ。ちなみに長女は、ブリュンヒルデ、と言われているみたいである。血は繋がっていない。

そして、もうひとり・・・

雪姫でーすっ！」

「それが私、

とても長い説明で少年は無視していた。というよりもあきれていた。

「・・・」

「ちなみに好きな食

べ物は、キムチでーすっ！」

「・・・お前、本当にワルキューレ

の一人かぁ！？」

「失礼ですねっ！　ちゃんとしたワルキュー

レの一人ですよっ！」

少年は何も見なかったことにしようとし

て帰ることにした。

「ちょ、ちょっと待ってくださいっ！」

何も見ていない。

「無視しないでーっ！」

空耳だらう・・・

。きつと。

「鎧あげますからっ!」

一応、話を聞くことに

した。

「・・・何だあ？」

「えーと、鎧を授ける前に自

分の願いを教えてくださいっ!」

「・・・やっぱりいらねえなあ」

「はい?」

「鎧はいらねえ。じゃあなあ・・・」

少年は

立ち去ろうとした。だが・・・

「ま、まってくださいーっ!

ねがいをおしえてくださいっ!」

じじい。すくじじい。

しかもうざい。

「……俺に

は願いなんてねえよお」

「じゃあ、私と一緒に居たいというこ

とでっ！」

勝手に決められた……。あ、そつだ。

「あるな

あ……」

「やっぱりあるんでしょう？ 願いが」

「名前だあ・

」・

「はい？」

「俺には名前がねえんだよお、名前をくれ

え
」

「名前・・・ですか・・・？」

ないのだ。昔はあったのだが・・・。

そう、この少年には名前が

「やっぱ言った俺が間違い

だったなあ。忘れる・・・」

「アギト・・・」

「・・・はあ？」

「・・・私の兄の名前です。よかったら使ってください」

女は笑っていた。だがその顔は心の底から笑っているとは思えない。
少

「・・・すみません、気にしないでくださいね」

なぜかこの少女を無視できなかった。

少年は

「・・・気に入ったあ」

「・・・えっ？」

「その名前もらうぜえ。アギト顎か、気に入った

あ！」

少女は驚いていた。この人は自分を慰めてくれたのだと、
そして

すごく優しい人なんだ、と・・・。

「おい、雪女っ！」

「わ、私は雪女じゃありませんっ！ 雪姫ですよっ！」

一緒に来るか？ 雪

え・・・

雪姫は完全に固まってしまった。あだ名でよだれたからである。しかも”雪”というあだ名を作ったのは、兄であるからだ。

「・・・」

「来ないの

かあ？」

「・・・行きますよっ！ 地獄の果てまでもっ！」

「・・・じゃあ、決まりだあ。これから頼むぞお、雪」

「こちらこそよろしく願いますっ！ 顎^{アギト}さんっ！」

てペアが結成されて物語はつづく。

じつじ

第1話 ワルキューレ（後書き）

雪「みなさん、はじめましてっ！ 雪姫です」

顎「・・・アギトだ。・・・よろしくなあ」

N「ちなみにキヨウの願いは、理奈ちゃんとずっと一緒に居たい・・・です」

顎「誰だあ？お前・・・」

N「では、

またねー^^」

第2話 湖（前書き）

前回のつづきです^^

第2話 湖

ペアが結成されてから数週間が過ぎ、今彼らがいるのは・

・

・アギトさあ〜ん

「……………」

「聞いてますか？」

「……………」

「……………熱いです〜」

「……………熱いもの好きな

んだろあ」

「……………だからって何で……………エジプトなんですかー
ーっっ！……！」

彼らはエジプトにいた。しかも砂漠をずっと歩いてきた。水は・・・ない・・・。

「・・・・・・・・」

くださーい
「

「・・・水」を

「・・・・・・・・我慢しろお」

「・・・・・・・・」

「・・・・・・・・」

このやり取りは二時間前からずっと同じだ。これ以外のことは言わない・・・。

「・・・

あ、アギトさんっ！ 向こうに何か見えますよっ！」

のはなんと、湖だった・・・。

雪が見た

「すごいですよっ！ アギトさん

っ！ 湖がありますよ！ 湖！」

「馬鹿かテメエは……。幻覚

だあ……」

「だから本当にあるんですって！ 湖が！」

「

だから、幻覚だつての……」

そういうことである。見間違いではなく、神が作った幻である。しかも湖を作り出す幻覚力……。並みの神ではない。

「……おい、さっきから後ろからコソコソうぜえんだよおっ！」

いきなりアギトが叫んだ。そして後ろから

一人の青年が現れた。

「いやいや、驚きましたよ。まさか幻覚
を見破るとは……。この幻覚は、ミス織斑でも見破れなかったはず
なのに」

「……わざと作ったんだろお。バレバレだぁ……」

「……ばれてしまいましたか。このフェンリル、一生の不覚です
ね」

「……あの〜？ アギトさん？ 知り合いでしょうか？」

「……知らねえなぁ」

「ああ、ご紹介が遅れました。私の
名前はフェンリルと申します。以後お見知りおきを」

「……何

か用かぁ？」

「はい、オーディーン様から届け物です」

ッ！ オーディーンだとおっ！

「

「はい、そうですが・・・」

「・・・そうかぁ。テメエもアイツの仲間かぁ・・・」

「どう

したんですか？ アギトさん？」

雪が心配して話しかけたが、

遅かった・・・。

「ブッ殺してやるぜエッ！！！！」

アギトは

フェンリルに向かって走っていった・・・。

第2話 湖（後書き）

雪「ところでアギトくん？」

顎「ナンダア？」

雪「

アギトくんもIS持つてるよね？ 見せて」

顎「・・・俺はISなんて持ってねえ。

ていつか、いらねえ・・・」

N「・

・・・次回ご期待ください」

番外話 それぞれの世界 凶編（前書き）

今回はお話ししながら自己紹介です^^

番外話 それぞれの世界 凶編

N「こんにちはー、こんばんはー^^」

雪「誰ですか？」

顎「・・・無視しろ。馬鹿になるぞお」

N「まあまあ、今回は

トーク自己紹介をしまーす^^」

雪「自己紹介？ 面白そうで

すねっ！」

顎「・・・自己紹介？ 勝手にやってるお・・・」

N「では雪さんに質問です^^」

雪「えっ、私がするん

じゃなくて質問式ですか？」

から答えてくださいね^^」

N「はい。僕が質問していきます

！」

雪「はいっ！了解ですっ

N「では、年はいくつでしょうか？」

雪「……

女性に年を聞くなんて失礼ですよ！」

顎「九百五十くらいじゃねえ？」

ブチッ！！

N「・

・十五歳みたいですネ。では次の質問です^^」

雪「……変な質問なすよ……」

好きな食べ物は何でしょうか？」

N「

でも好きですっ！」

雪「辛くて熱いものなら何

顎「害虫の間違いじゃねえ？」

チッ！！

ブチブ

N「……ありがとうございます。では次の質問です

^^
」

雪「……はい、何でしょうか？」

N「好きな人

いますか？」

雪「な、な、何を言ってるんですかつ！？ い

ませんよっ！」

顎「だから害虫だろぉ？」

ブチッ！！！！

N「・・・ご協力ありがとうございました。では次はアギトくんですね^^」

顎「ナンダア？」

あたのですか？

N「昔はどこに住んでい

顎「昔・・・かあ。知らねえなあ・・・」

N「司くんとは知り合いですか？」

顎「司？誰だあ？」

N「ISに興味は？」

顎「・・・さあな」

N「一体あなたは

何のために旅をしているのですか？」

顎「・・・・・・・・復讐だあ。オーディーンとISの開発者を殺すだけだあ・・・」

N「なるほど・・・では、最後の質問です

^^
」

顎「・・・・・・・・」

N「雪さんのこと、どう思いますか

」？」

顎「・・・仲間、だなあ」

雪「はあ・・・・・・・・」

顎「・・・どうしたあ？」

雪「何で

もありません・・・」

N「はあ、じゃあまた今度来ますね！。
ではみなさん、5神もよろしくね^^」

番外話 それぞれの世界 凶編（後書き）

N「今回は、二人にもあまり質問できませんでした。が、またしますねー^^」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3022s/>

IS インフィニット・ストラトス 4 凶

2011年4月10日20時55分発行